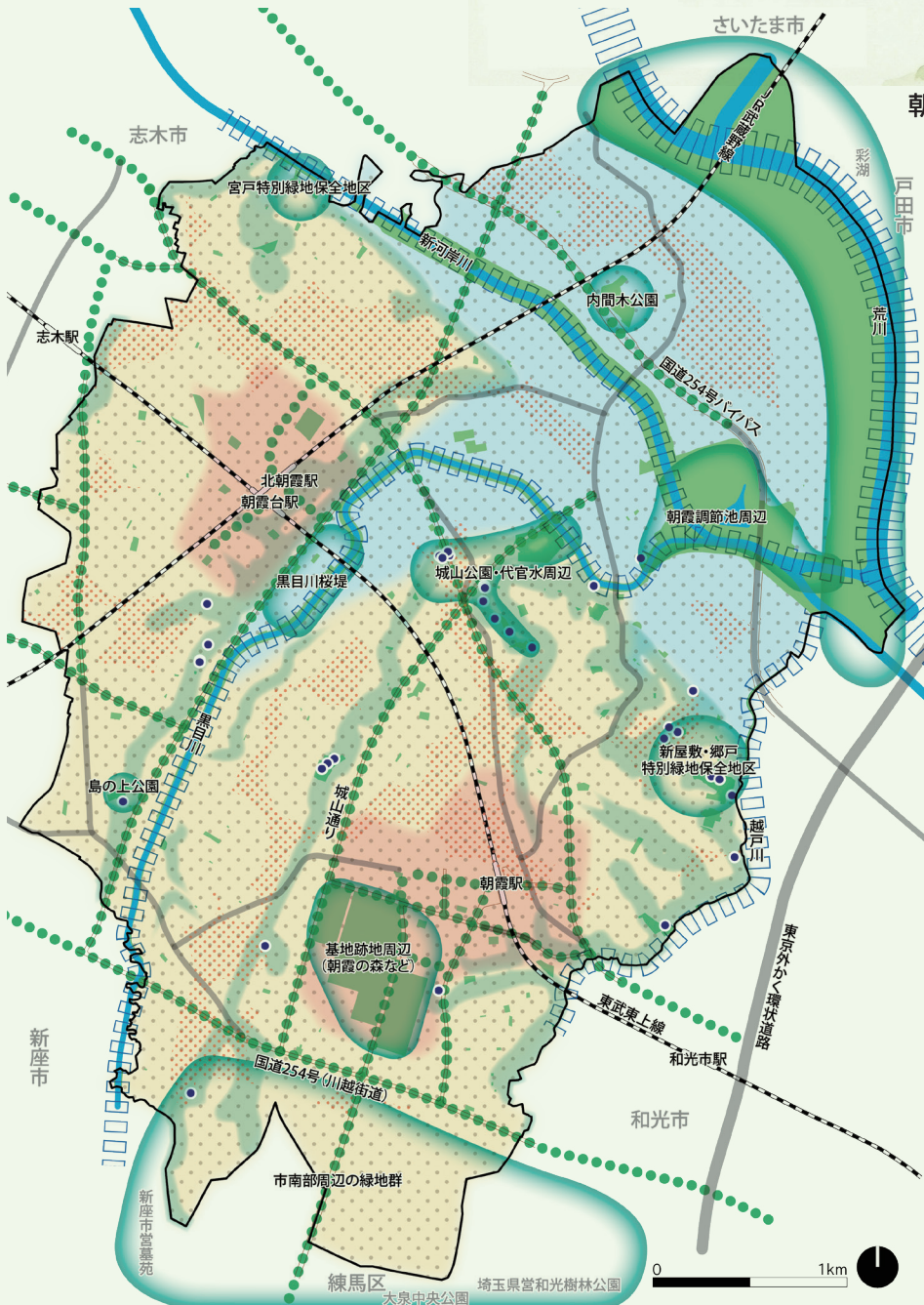













みどりの配置方針図

朝霞市のみどりは、地形の特徴に沿って広がっており、それぞれの役割ごとに「核」「回廊」「拠点」「基質」の4つに見立てます。これらを互いに結び合わせることで、大地に深く根を張る一本の大きな樹木のように、市全体のみどりをつなげていきます。



朝霞市のみどりのつながりをイメージした大きな樹木



-  みどりの核・拠点
-  みどりの回廊（河川軸）
-  みどりの回廊（道路軸）
-  みどりの回廊（台地面と低地面の境界部）
-  みどりの基質（武蔵野台地面）
-  みどりの基質（荒川低地面）
-  湧水
-  都市公園等
-  身近な公園整備検討エリア（都市公園や公園的空間から離れたエリア）
-  居心地の良い快適な歩行空間の整備推進エリア
-  緑化重点地区（市全域）

みどりの配置方針図

みどりの指針

01 | みどりのチカラを上手に生かす指針 (グリーンインフラ指針)

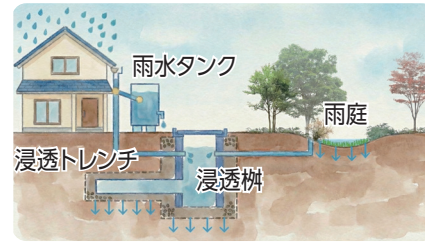
この指針は、10の視点に基づき、自然が持つ多様なチカラを上手に生かしながら、朝霞らしいみどりを豊かにすることを目指すものです。

① 健全な水循環を支えるみどり (雨水の浸透・貯留のチカラ)

まち全体が雨を優しく受け止める大きなスポンジになることを目指すものです。雨水をゆっくり地面に浸み込ませることで、地下水を蓄えながら、水害を防ぐ健やかな水の循環を育てます。

みどりを守る

雨水を一時的に貯める・地下に浸透させる

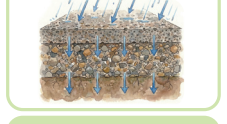


屋上の緑化



雨水貯留浸透
植栽基盤

透水性舗装の採用



雨水貯留碎石層
調整池の整備

② 都市の気温上昇を緩和するみどり (涼しさを生むチカラ)

ヒートアイランド現象を緩和するため、植物と水が持つ自然の冷却効果を活かしたまちづくりを目指すものです。クールアイランドになっているみどりを守り・育てることが大切です。

みどりを増やす

みどりを守る

みどりで効果的に冷やす

建物の南側や西側に緑陰を配置
屋上・壁面の緑化
みどりのカーテンの設置
池やせせらぎの配置
遮熱性舗装や保水性舗装の採用

③ 地球温暖化の緩和に貢献するみどり (炭素を蓄えるチカラ)

みどりを守る・増やす

二酸化炭素(CO₂)を吸収してくれるみどりを守り・育てることで、地球温暖化を少しでも和らげることを目指すものです。

適切な里山管理を行う

木が密集しすぎないように間伐を行うことで、残された木に光と栄養が行き渡り樹木が元気に育つことでCO₂をたくさん吸収できるようになります。

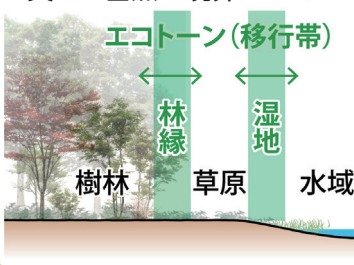
炭素固定を促進させる



④ 生き物の生息場所となるみどり (生き物の命を育むチカラ)

朝霞の自然を未来へつなぎ、人と生き物たちが共に暮らす持続可能なまちを目指すものです。みどりとみどりをつなぎ、質を高めることで、地域の生態系を豊かにし、人間にとっても住みよい環境を育むことが大切です。

異なる自然の境界をつくる



生息環境の質を高める

立体的なみどりをつくる

朝霞本来の生き物を大切にする

生息環境をつなげる(エコロジカルネットワークの形成)



5 まちの景観・郷土の風景を形成するみどり (風景を彩るチカラ)

まちの景観をつくっている朝霞らしいみどりを守り育て、その魅力を未来へ引き継ぐことを目指すものです。特に、黒目川や朝霞の森周辺のみどりは朝霞のシンボルであり、自然と触れ合える貴重な場所です。また、武蔵野の面影を残す斜面林や農地の風景も、失われないように守ることが大切です。

朝霞らしい風景を守る

潤いのある景観をつくる

癒しやにぎわいをもたらす
景観を育てる

6 農業活動の場となるみどり (恵みをもたらすチカラ)

私たちの暮らしを支え、豊かにしてくれる身近な農業を守り育てることを目指すものです。農家が農業を続けやすいように支援するとともに、農業体験や地産地消を進め、防災や環境保全といった農地の役割についても理解を深めることが大切です。

農業を続けられる環境づくり

体験と学習を通じた
「食」への理解

参加と交流で広がる
地産地消の輪

7 健康づくりの場となるみどり (心身の健康を保つチカラ)

みどり豊かな遊歩道や公園を、私たちの健康を支える健康資産と考え、より健康になれるまちを目指すものです。まち全体の健康資産を充実させることや、多様な健康づくりができる場を増やすことが大切です。

みどりを生かした健康プログラムを充実させる

まちの中に健康資産を充実させる

歩道をつなげる

人にやさしい
機能をつくる

健康づくりに役立つ公園にする

足腰を鍛えるコースや植物で癒やされる場所など



8 身近な遊び場となるみどり (健やかな成長を支えるチカラ)

朝霞市のどこに住んでいても、だれもが安全で魅力的な遊び場に行けることを目指すものです。

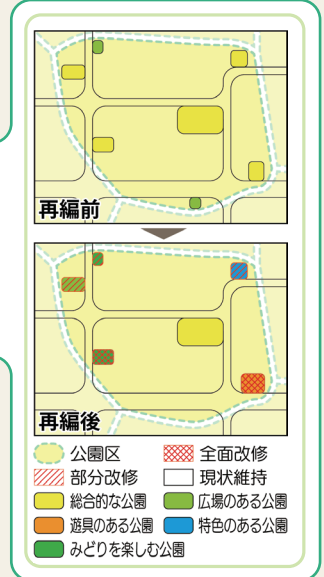
身近な公園を充実させる

公園の足りない地域をなくす

公園を直し役割を見直す

今あるみどりを生かして
遊び場をつくる

市民みんなで
遊び場をつくり、育てる



9 にぎわいや交流の場となるみどり (交流を生むチカラ)

市内にあるみどりの空間を使って、みんなが集まり、交流できる場所をつくることを目指すものです。

みんなでつくるにぎわいの場



みどりを生かした
交流の場づくり



10 防災拠点となるみどり (まちの安全を支えるチカラ)

身近な公園を充実させることで、災害時に誰もが安心して避難できる場所を確保し、災害に強いまちづくりを目指すものです。

公園不足域に
公園整備を進める

みどりのストック(財産)を活用する

公園の防災機能を高める



みどりの指針

02 みどりを支える仕組みの指針 (グリーンマネジメント指針)

この指針は、みどりの財産を未来へ育み、多様な人々が連携してその価値を最大限に生かすための考え方を示しています。

支援体制を充実する

多様な財源の確保と
運用の強化

多様な主体の連携

市の関係部署が協力し合うことや、市民・企業・行政の連携が充実することは、まち全体でみどりを支える体制づくりにつながります。

D Xの活用

デジタル技術を活用することにより、効率的な公園管理や情報発信が可能になります。

みどりを使いこなす

協働の管理と魅力向上

市民や地域活動団体が主体的に関わることで、より魅力的な空間として育つ仕組みが構築されます。



参画の環を育む

みどりの担い手の育成と裾野拡大

プレーパークやみどりに係る講習会などは、みどりの活動に参加する人を増やすきっかけになり、新たな担い手の育成につながります。



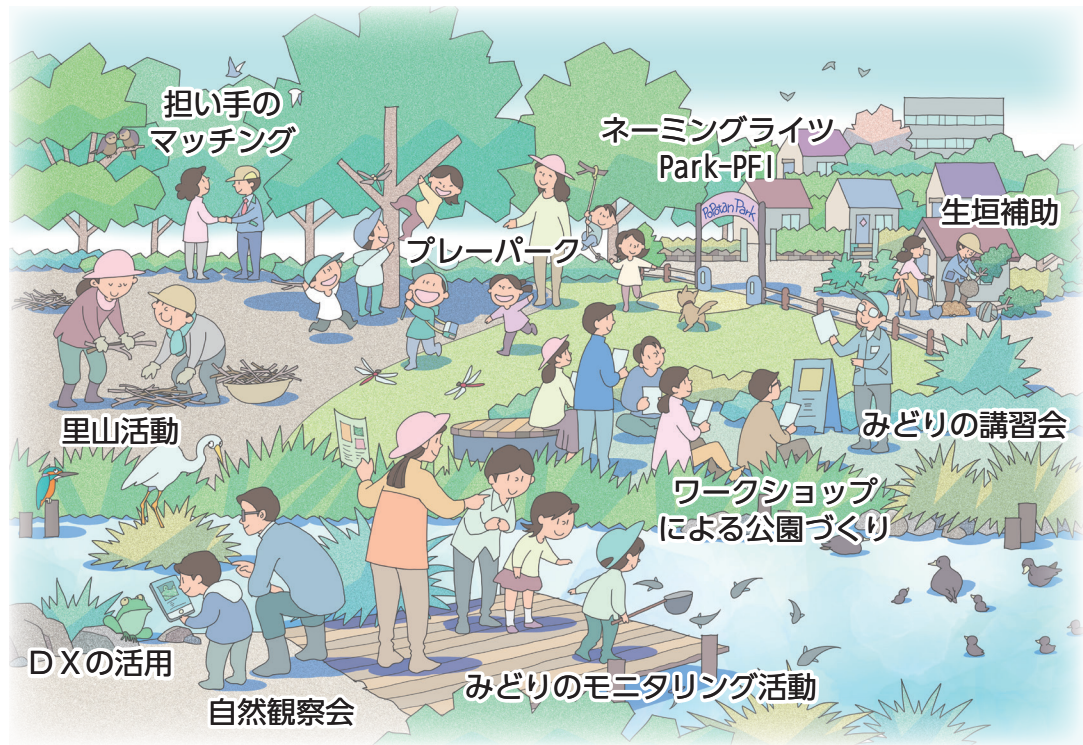
プレーパークの風景



緑地管理の勉強会

担い手間の ネットワーク構築と 協働促進

活動したい市民とみどりの場所などを結びつける仕組みを作り、交流を活発にすることで大きな参画の環が広がります。



多様なニーズに対応するみどりの柔軟な活用

公園ごとの利用ルールを地域の実情に合わせて検討し、柔軟な運用を可能にすることで、多様なニーズに対応する環境が生まれます。

① 対話の場
(ワークショップ)

② ルール作り
(合意形成)



④ 改善

③ 実践
(イベント開催・公園活動)

地域のニーズからルール作りを検討
(野菜マルシェや花火遊びなど)

ワークショップで
公園のルール作り

みどりの価値を学ぶ

みどりの現状把握とモニタリング

みどりの現状を正確に把握することは、科学的根拠に基づいた計画策定に生かされます。また、市民アンケート調査はニーズや満足度の把握に役立ちます。

みどりの多面的なチカラの評価と普及啓発

みどりの価値を見える化して広く普及啓発すると、みどりを守り育てる活動が促進されます。